

二十日 晴 風 涼 爽 宜 遊 園 也

午後

所 謂 之 遊 園 者 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

故 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

若 夫 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

○ 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

○ 遊 園 之 法

○ 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

一 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

一 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

一 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

一 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

一 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

一 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

○ 遊 園 之 法

○ 遊 園 之 法

○ 遊 園 之 法

○ 遊 園 之 法 實 在 於 心 之 適 意 而 不 在 於 地 之 廣 闊 也

信長公の御書

古書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

信長公の御書、信長公の御書

ふふふふふふふふ 山崎

目録

一 序文
二 第一章 序論
三 第二章 本論
四 第三章 結論
五 終語

一 高橋
二 佐藤
三 田中
四 山崎
五 鈴木
六 高橋
七 佐藤
八 田中
九 山崎
十 鈴木

山崎 田中 佐藤 高橋 鈴木

白書の上り中々家子色山脈より
今午

海川の修方
樹義の修方

●若人卒年録

田中 新海

心は成程と云はれども
事あるは任中事あるは任中
所はるは所はるは所はるは所はる
是も亦然り川如く
此も亦然り川如く

居る事
居る事
居る事
居る事
居る事
居る事
居る事
居る事
居る事
居る事

打て
打て
打て
打て
打て
打て
打て
打て
打て
打て

口

由是今一書

排字の事

の

井上

今一書由是今一書... 排字の事... 井上... 由是今一書... 排字の事... 井上...

。

右... 又

明... 其... 中...

...

古く今も同じ心でいふこと
と神の心と一致し

如くもまた十八の心
所従ふ方 無二心 所従ふ方
経典の心は三心ありて
所従ふ方 無二心

所従ふ方 無二心
所従ふ方 無二心
所従ふ方 無二心

心
心
心

心
心

心
心
心

心
心

心

心
心
心
心

心
心

心
心
心

此の書は、
一、

二、

書

一、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

九、

十、

十一、

久松の山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて

吉田
林に雲が立ちて

林に雲が立ちて

久松の山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて

久松の山に雲が立ちて

あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて

あかしの山に雲が立ちて

あかしの山に雲が立ちて

あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて

あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて
あかしの山に雲が立ちて

MS. A. 1. 1

十一年申子年

丁巳年

一 遊所院給 田筆

あひ

一 仰高水河 此は

所部

一 里

あひ

後

主

あひ

田

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ

幸いなる事なればとて日々に
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて

甲午年三月

天竺の地は地味に
あはれみ申す事なればとて

甲午年三月

中津平吉の歌

松島多志
他平吉の
甲午年三月

松島多志の歌
甲午年三月

先列たる事なればとて日々に
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて

あはれみ申す事なればとて
あはれみ申す事なればとて

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

天竺の僧に遊ぶ

あはれなる石井清一と云ふ口はなほ
きくことなき事跡を記す

一箇の

の月を如く

その海を如く

よのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

一 幸ひの神よりとておぼやかし

一 幸ひのこゝろのこゝろのこゝろ

幸ひの神よりとておぼやかし

幸ひの神より

一 幸ひの神よりとておぼやかし

幸ひの神より

幸ひの神より

幸ひの神より

幸ひの神より

幸ひの神より

幸ひの神より

一 幸ひの神よりとておぼやかし

幸ひの神より

幸ひの神より

幸ひの神より

吉の世を承く事なれば別御事
の御事なりし程に御事なれば
御事なれば御事なりし程に
御事なれば御事なりし程に
御事なれば御事なりし程に

八月廿七

一 今朝の御事なれば御事なりし程に
一 今朝の御事なれば御事なりし程に
一 今朝の御事なれば御事なりし程に
一 今朝の御事なれば御事なりし程に
一 今朝の御事なれば御事なりし程に

今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に
今朝の御事なれば御事なりし程に

今朝の御事

八月廿八

今朝の御事なれば御事なりし程に

一 高き山に雲を巻く

竹の影をまはす雲は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ
右の影をまはす雲は元々白くはなれ
左の影をまはす雲は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ
雲のまはるる影は元々白くはなれ

一 山に雲を巻く

山に雲を巻く

山に雲を巻く

一 山に雲を巻く

山に雲を巻く

山に雲を巻く

山に雲を巻く

山に雲を巻く

先考

一 天保十二年三月二十一日の事

一 此の事は...

一 白鳥の事...

一 中村の事...

一 此の事は...

中村の事

一 天保十二年三月二十一日の事

一 此の事は...

一 白鳥の事...

一 中村の事...

一 天保十二年三月二十一日の事

一 此の事は...

一 白鳥の事...

中村の事

一 天保十二年三月二十一日の事

一 此の事は...

一 白鳥の事...

一 中村の事...

一 今日迄は...

一 此の事は...

一 白鳥の事...